

ナシ	園地が浸水した場合どのような影響が考えられますか。	樹種共通の回答を参照	
	園地に土砂が流入して埋まっていますが、どうしたら良いですか。	樹種共通の回答を参照	
	樹が倒伏したり折れたりした場合はどうしたらよいですか。	樹種共通の回答を参照	
	樹勢低下がある場合に対処する方法がありますか。	樹種共通の回答を参照	
	どのような病気の被害が心配されますか？	「幸水」や「豊水」では黒星病の多発生が懸念されます。黒星病は、夏の発病に対しては心配する必要はありませんが、秋の葉に発生が多くなる可能性が高まっています。病原菌の越冬量を少なくするため、収穫後の防除が重要となります。落葉は園内に放置せず、ロータリー耕で土中にすき込むなど処分する必要があります。その他、輪紋病や「二十世紀」では黒斑病の発生に注意が必要です。	
	殺虫剤を散布できない場合、どのような害虫の被害が心配されますか。	注意すべき害虫として、シンクイムシ類とカメムシ類、ハダニ類が挙げられます。シンクイムシ類については、これまでの防除により密度が低く保たれていれば、今年に関しては今後殺虫剤無散布でも収穫できる可能性があります。水の確保ができない等の理由で殺虫剤散布ができない場合、交信攪乱剤を用いてシンクイムシ類を防除できますが、防除効果を上げるためには広域に処理する必要があります。 カメムシ類については、当年の発生量が少なければ問題にならない可能性があります。また、カメムシ等の防除のために残効性の長い薬剤を使用すると、殺虫剤によってはハダニの多発生を招く場合があるので注意が必要です。 梅雨明け以降は例年ハダニの密度が高まるので、合わせて注意が必要です。なお、防除ができない場合、上記の害虫意外に「ケムシ類」の発生が増えることも予想されます。	キーワード「交信攪乱剤」で、関連情報を検索できます。
	収穫期に殺虫剤を散布できない場合、次年度に向けた防除での注意点はありますか。	収穫期の防除ができないとシンクイムシ類の越冬繭が多くなることが予想されます。春先の早めの徹底防除が必要になります。また、ハダニも同様に夏から秋の防除ができない場合は越冬量が増加するので、越冬期防除（冬マシン）が重要となります。	
今後、高温と乾燥が続いた場合、どのような影響が考えられますか。	高温乾燥は「新高」のみつ症、「あきづき」「王秋」のコルク状障害のを助長し、根域環境が悪化した状態ではそれらの果肉障害を更に助長する可能性があります。根域環境を改善し、かん水等を適切に行う事が必要です。根域環境が悪化していない場合でも、果実肥大が抑制されますので、適切なかん水は必要です。		